

R2 芸術鑑賞会

10月22日(木)芸術鑑賞会を行いました。今年度は、古典芸能「義太夫節」でした。



文化庁の「～文化芸術による子どもの育成事業 巡回公演事業～」によるもので、一般社団法人 義太夫協会の皆さんに来ていただきました。生徒の皆さんの感想を紹介します。

思ったよりおもしろかった。声がとても澄んでいて、声量もすごかったので、すごくかっこいいなと思った。また、役の声によって使い分けがすごく上手にされていたところに感動した。ろうろうと語られるところにすごく引きつけられた。

声を使う音楽部としての観点からも、すごく勉強になった。もちろん、伝統芸能の歴史や成り立ちもとてもおもしろかった。喋られる方の話し方が、すごく引き込まれる話し方で見習いたいと思った。学ぶことが多い公演だった。

(2年 瀬口さん)

私は初めて、生で義太夫節を聞きました。三味線の音がとても迫力があって、格好よかったですし、礼儀がきれいにできていて見とれました。私も昔、三味線を体験したことがあります、

思ったように音が出せませんでしたので、余計に感動しました。また、聞きたいです。

(2年 原さん)



今まで見たことがなくて、初めて鑑賞しました。とても迫力があってビックリしました。とても声量があってすごかったです。三味線もきれいで感動しました。物語になっているのも、とてもすごかったです。

また、見る機会があったらぜひ見たいです。

(2年 福山くん)

演題は、「菅原伝授手習鑑 車曳(くるまびき)の段」で、物語の一場面を語ったものでした。「物語」を三味線の演奏にのせて「語る」芸能が、「浄瑠璃」で、さらにその中の一つが「義太夫節」ということです。

ストーリー性があって、学べば学ぶほど面白みが増すと思います。

右の写真は、見台と言って、今回使われた台本などを置く台です。この一つをとっても、文化財と言える貴重で高価なものでした。



学芸発表会に続き、「表現」を学びました。この「表現」は、今後も大きな鍵になってくると思います。



2020.10.28 副校長 山部